

国立競技場記念作品等設置等アドバイザー会議（第4回）議事概要

1. 日時：平成28年5月19日（木）15：00～16：00
2. 場所：秩父宮ラグビー場オープンルーム6
3. 議事（1）『新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム』の検討経緯の報告について
（2）最終保存場所（案）の確認について
（3）意見交換
4. 出席者 木島隆康アドバイザー、工藤晴也アドバイザー、杉山茂アドバイザー、藤岡洋保アドバイザー

5. 議事要旨

<議題1：『新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム』の検討経緯の報告について>

○事務局から、新国立競技場の聖火台の設置場所について（平成28年4月28日新国立競技場の聖火台に関する検討ワーキング・チーム）（資料1）について説明した。

○アドバイザーから、以下の発言があった。

- ・聖火台については、セレモニーの演出と密接に関係しているため、これまでの大会でも、あらかじめ分かるようにはしておらず、極秘事項として扱われてきた。事情を承知している者にとっては当然であり、この時点でこれほど騒がれたことには違和感を感じる。

<議題2：最終保存場所（案）の確認について>

○事務局から、炬火台に裸火を使用するための与条件（資料2-1）、地下2階公開空地に壁画を設置するにあたっての技術的な制約（資料2-2）、ブロードキャストコンパウンドスペース 記念作品配置案（資料2-3）、配置のコンセプト（案）（資料3）について説明した。

○事務局から、以下の補足説明を行った。

- ・ブロードキャストコンパウンドスペースの壁画について、基礎梁を下げることで作品と梁とが干渉する切り欠きをなくしたこと、オリパラ後に壁を新設することで、全ての作品を一堂に設置する予定であること。

○アドバイザーから、以下の発言があった。

- ・ブロードキャストコンパウンドスペースの壁画について、前回案に比べ、むしろ良い形になったと思う。一望できる環境が整い、資料を拝見したところ狭苦しい感じもなく、旧国立競技場に近い感じである。スラブの切り下げ位置についても揃って

おり、見やすい展示計画になったと感じた。

- ・ブロードキャストコンパウンドスペースの壁画について、1964年の作品が一堂に配置されて蘇ることは、IOCも含め望まれる良い方向であると思う。

○資料2-3：ブロードキャストコンパウンドスペース記念作品配置案について、以下の質疑応答を行った。

- ・アドバイザーから、スラブ切り下げについて、切り下げた部分の清掃などの管理が大変になる、絵の鑑賞の点からも床をゆるやかな斜面にできないか、との質問があり、事務局から、前回案以降、切り下げを1本につなげてすっきりさせたこと、地下には雨水貯留槽や配管等が入っていること、2mの高低差を確保可能な勾配をとるにはかなりのスペース（スロープの延長）が必要になること、下り勾配になって雨水処理が必要になる、と回答した。
- ・アドバイザーから、スラブ切り下げについて、勾配が難しいのであれば、階段状にするなどの工夫ができるのではないか、との質問があり、事務局から、切り下げ部の形状は検討したい、と回答した。
- ・アドバイザーから、オリパラ後に新設する壁について、L字の入隅部が死角となってしまう、警備上の支障が生じる可能性があるため、ずらすことができないか、との質問があり、事務局から、照明や監視カメラの設置等による対策を含め検討する、と回答した。
- ・アドバイザーから、壁画8と12について、上記の警備上の問題をクリアするために、絵を1スパン分南東にずらしてその1スパン分を開放するか、車路2横の壁に移せないか、との質問があり、事務局から、当該部分は公開空地からフィールド内への風の取り入れ口として計画しており、車路2の横は壁面ではなく段差のみである、と回答した。
- ・アドバイザーから、壁画の設置位置の付近に上階への吹き抜けがあり、雨がかかる可能性があるため、もう少し壁画から離せないか、との質問があり、事務局から、壁画からは5m離れており、庇があることになる、と回答した。

○上記のやり取りを踏まえ、最終保存場所が了承された。

○会議のまとめについては改めて確認の連絡を確認した。